

研修歯科医のセミナー企画・発表に関する意識調査

坂 卷 研 治 富 川 和 哉
津 田 緩 子 樋 口 勝 規

抄録：九州大学病院口腔総合診療科では、自己学習の動機付けを目的に研修歯科医自らが企画・発表するセミナーを行っている。今回、平成26年度のセミナーに関して調査を行った。研修歯科医31名を対象とした結果、発表者、スライド準備、資料収集および質疑応答などの役割分担については77.8%が3種以上の役割を担当していた。卒後進路決定者は、未決定者と比較して積極的に役割分担をしていた（担当分担数3.4種類, 2.5種類, $p < 0.01$ ）。研修歯科医の77.8%が本セミナーを有意義と回答していた。卒後進路の決定度とセミナーへの積極性に関連が示唆されたため、今後の指導に際して各研修歯科医の取り組みや進路の決定に関しても注目する必要があると考えられた。

キーワード：臨床研修歯科医 セミナー アンケート 意識調査

緒 言

九州大学病院では「患者さんに満足され、医療人も満足する医療の提供ができる病院を目指す」を基本理念としている。歯科部門の臨床研修プログラムではこの基本理念を基に、「患者中心の全人的歯科医療」を理解し、歯科医師としての基本的・総合的な臨床能力（態度・技能および知識）を習得し、患者の信頼に応じ得る倫理観を身につけ、歯科医学・歯科医療の進歩向上に対応できる資質の向上を目指している¹⁾。九州大学病院口腔総合診療科（以後、当科）では、臨床研修歯科医に対し自己学習の動機づけを目的として、「生涯にわたり自己研鑽を積むために必要な知識・技能を身につける」という到達目標のもと、研修期間の一年を通して研修歯科医らが企画・発表を行うセミナーを、歯科医師臨床研修制度が必修化された平成18年より実施している。今回、研修歯科医の参加状況や要望を把握し、より有意義なセミナーとすることを目的に、当科配属の研修歯科医を対象に本セミナーに関するアンケート調査を行った。アンケートによりセミナーへの取り組み実態や要望、また本セミナーを研修のなかで如何に捉えているかを検討したので報告する。

方 法

対象は、平成26年度の研修歯科医のうち9月末に調査を行った時点で当科配属の31名（男性17名、女性14名）である。所属しているプログラムの内訳はプログラムA（単独型研修プログラム）20名とプログラムB（複合型研修プログラム）11名である。ア

ンケート調査は、平成26年4月から9月までに実施した研修歯科医セミナーについて行った。

セミナーは事前に指定された課題を基に、研修歯科医3～4名1組で具体的なテーマを自ら設定し、そのテーマを達成するための目標・行動計画の設定、取り組んだ内容についての発表準備を行い、研修歯科医および指導歯科医の参加のもと、約20分の発表および質疑応答を実施している。各回、1か月前から発表内容について検討を開始し、適宜指導医の指導を受けながら準備を行っている。課題は、基礎編・応用編・自由テーマ編と徐々に研修歯科医の自由裁量で企画ができるように構成している（表1）。アンケートに用いた質問は14項目からなり（表2）、回答は無記名とした。特に役割分担数については得られたデータを、男女差、進路決定の有無、所属するプログラム別に比較検討を行った。統計処理についてはstudent t-testを用い、有意水準は0.05とした。

結 果

本アンケートの有効回答率は100%で、当科に所属していた研修歯科医31名の全員が回答していた。研修期間の中間にあたる調査時点において、研修歯科医セミナーの平均担当回数は1.5回であった。準備のために個人が要した時間は77.8%が「6時間以上」と回答し、班での作業に要した時間は88.9%が「6時間以上」と回答していた。役割分担（発表者、スライド準備、資料収集および質疑応答対応を複数回答可）については、77.8%が3種以上の役割を担当していた。セミナー準備に用いた資料には、当科の蔵書に加えインターネット（77.8%）、自己所有の書籍（63.0%）が用

表 1 研修歯科医セミナー課題

基礎編	応用編	自由テーマ編
①初診時、症例発表に必要な資料作り	①歯周外科	①クラウン・ブリッジ
②歯科治療に際し必要な薬剤の知識	②外科的歯内療法	②義歯
③ブラッシング・PMTC・メンテナンス	③粘膜疾患	③口腔外科
④歯周病の検査から基本治療終了まで	④外傷	④ペリオ
⑤ CR 充填・知覚過敏処置	⑤消炎	⑤歯内
⑥抜髄から根充までに必要な知識	⑥縫合	⑥全身管理
⑦支台築造・In・CK・Br の形成	⑦顎関節症	⑦予防
⑧義歯の製作に必要な知識	⑧う蝕予防	
⑨普通抜歯に必要な知識	⑨漂白	
	⑩インプラント	
	⑪義歯設計	
	⑫総義歯	

表 2 アンケート内容

1. 調査時までに担当したセミナー回数
2. セミナー準備に要した時間（個人・班作業） （3 時間以下・3 時間以上 6 時間未満・6 時間以上）
3. セミナーを行う際の研修歯科医の役割 （発表者・スライド準備・資料集め・質疑応答対応の役割について複数回答）
4. 発表準備に用いた資料 （当科蔵書・自書・図書館・インターネット・その他より複数回答）
5. 研修歯科医セミナーの行動目標に対する達成度（①日常の臨床の中から疑問点・問題点を抽出する、②抽出した課題に対し、的確な資料・情報収集を行う、③得られた情報を多角的な視点から適切に分析・評価する）（5 段階評価）
6. 研修歯科医セミナーは有意義であったか（はい・いいえ・わからない）
7. 発表担当回数・準備期間・メンバー（少ない/短い・ちょうど良い・多い/長い）
8. 与えられたテーマの範囲（広い・狭い・わかりにくい・ちょうど良い）
9. 与えられたテーマの難易度（難しい・普通・易しい）
10. 発表準備資料としての口腔総合診療科の蔵書（不足・普通・充実）
11. 目標・行動計画の立案（難しすぎる・難しい・普通・易しい・易しすぎる）
12. 指導医の指導について（不十分・普通・十分）
13. スライドの枚数・発表時間（少ない/短い・ちょうど良い・多い/長い）
14. 疑応答時の指導医のコメントについて（不十分・ちょうど良い・十分・その他）

いられていた。セミナーに関する研修歯科医の評価として、発表担当回数・準備期間（1 か月）・メンバー数（3～4 名）・発表時間（20 分）、当科の蔵書内容およびライターへの指導に関してはそれぞれ 81%・85%・85%・100%・81%・88% が適正と回答していた。与えられたテーマの範囲は、63% が「広い」と回答し、「ちょうど良い」と回答したものは 14.8% にすぎなかった。テーマの難易度は 88% が「普通」と回答し、

残りの 12% が「難しい」と回答していた。セミナーに対する自己達成度（問題抽出、情報収集、分析・評価）について、それぞれ約 90% が普通以上の達成度と回答していたが（図 1）、発表の際に課している到達目標や行動計画の立案については、62.1% が「難しい」と回答していた。本セミナーについて、77.8% が有意義であったと回答していた。アンケート結果の男女別・プログラム別の比較については、いずれも有意差を認めなかった。しかし、研修終了後の進路決定者と未決定者の回答を比較すると、進路決定者は自書の活用、図書館の利用や収集した論文など多様な資料を用いて準備を行っていた（図 2）。役割分担数は、進路決定者（17 名）は平均 3.4 種類と未決定者（14 名）は平均 2.5 種類と回答し、進路決定者が有意に多くの種類の役割を担って準備していることが示された（ $p < 0.01$ ）。特に、質疑応答対応を担当した研修歯科医の割合は、進路決定者では 58% であったのに対し、進路未決定者は 7% であった。

考 察

研修歯科医が自ら企画・発表を行うセミナーは自己学習や集団学習、資料作成、コミュニケーション、プレゼンテーションおよび討議など、多くの能力を養うのに必要なことから行っている。本セミナー調査から、発表担当回数・準備期間・メンバー数・当科の蔵書およびライターの指導などの設定については 80% 以上が適正と評価し、発表時間は 100% が適正であるとの評価していた。また、77.8% の研修歯科医より本セミナーが有意義であったと評価されていた。したがって、セミナー自体は研修歯科医にとってアクティブラーニングの手段として活用され、生涯学習における自己学習や自己省察の第一段階として有効と思われる²⁾。一方、テーマの範囲や目標・行動計画の設定については適正と解答する者は少なく、改善の必要性が示唆された。

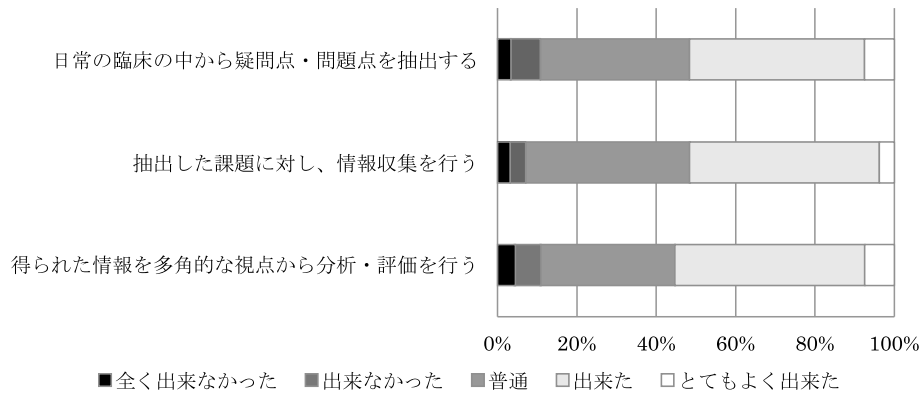


図 1 研修歯科医セミナー到達目標に対する自己評価

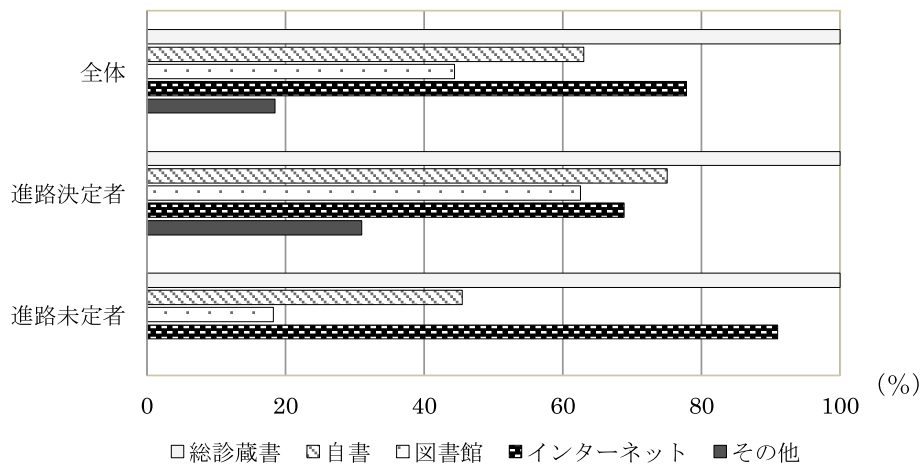


図 2 発表準備に用いた資料 (複数回答可)

男女差や所属プログラム別では回答内容に差を認めなかったが、調査時に研修終了後の歯科医師像や目標が明確になっている研修歯科医の方が、セミナーに積極的に参加していることが示唆された。研修終了後の明確な目標設定ができていることが、セミナーへ積極性に関与しているのか、積極的な研修歯科医ほど明確な目標が設定できているのか、その因果関係については本調査では明らかにできない。一方、能動的学習者とキャリアパスの早期設計には密接な関連があることが示唆された。この結果を受けて、指導歯科医は双方の観点から注視して指導を行うことにより、セミナーの充実と適切な進路相談の実施の一助となり得ると考えられた。また、研修歯科医が本セミナーを通じて、「振り返り」すなわち自己省察を繰り返し^{3,4)}、有意義な研修生活を送れるように、指導していく必要があると思われる。

結 論

研修歯科医を主体としたセミナーは、アンケートに

より一定の自己達成度および有意義なものとして評価されていた。本調査より、卒後進路の決定度とセミナーへの積極性に傾向が認められたため、指導していくうえで研修歯科医の進路決定を支援し、研修終了後に明確な目標が持てるような環境を整えていく必要がある。今後の指導に際しては、各研修歯科医の取り組みにも注目する必要があると考えられた。

本論文中の作成にあたり、利益相反事項はない。

文 献

- 九州大学病院臨床研修教育センター HP. <http://www.kenshu.hosp.kyushu-u.ac.jp/> (最終アクセス日 2015.3.18)
- Dent JA, Harden RM. A Practical Guide for Medical Teachers. 3rd ed. Edinburg: Churchill Livingstone; 2009.
- Schon DA. The Reflective Practitioner: How Professionals Think in Action. New York: Basic Books; 1983.
- 佐藤 学, 秋田喜代美, 訳. 専門家の知恵 反省的実践家は行為しながら考える. 第 1 版. 東京: ゆるみ出版; 2001.

著者への連絡先

津田 緩子

〒 812-8582 福岡県福岡市東区馬出 3-1-1

九州大学病院口腔総合診療科

TEL 092-642-6490 FAX 092-642-6520

E-mail : htsuda@dent.kyushu-u.ac.jp

Attitude Survey for a seminar organized by dental trainee

Kenji Sakamaki, Kazuya Tomikawa, Hiroko Tsuda and Yoshinori Higuchi

General Dentistry, Kyushu University Hospital

Abstract : It has been conducted a questionnaire study for evaluating the dental trainee self-organizing study seminar at Kyushu University Hospital in 2014 semester. By collecting answers from 31 dental trainees, 77.8% of trainees experienced more than three types of roles such as presenter, preparing slides, collecting materials or answering questions. Trainees who already decided their next career had more actively participated this seminar than those who didn't yet (3.4 vs 2.5 types of roles, $p < 0.01$). 77.8% of respondents felt it as useful experience. As it is exhibited the relationship between status of next career and positive attitude, careful consideration for dental trainees activeness might be needed under taking the lead.

Key words : dental trainee, seminar, questionnaire, attitude survey